

令和7年度 学校評価

■ そう思う
 ■ どちらかといえば、そう思う
 ■ どちらかといえば、そう思わない
 ■ そう思わない
 ■ わからない

(1) 主体的に考え行動する力を育む教育の推進		考察
1 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進 学校は、豊かな心と健やかな体を育む教育の充実に努めていると思いますか。 (感動・感謝、郷土愛、いのちを大切にすること、子どもの体力向上、基本的な生活習慣など)	2 自ら学びに向かう力を育む教育の推進 学校は、子どもが自分で考え、自分から取り組む授業づくりに取り組んでいると思いますか。	アンケート結果から、児童生徒・保護者いずれからも肯定的な回答が多く、本校が日常的に取り組んでいる健康教育、体力向上への取組、心の教育が確実に浸透している様子がうかがえる。特に、「感動・感謝」「いのちを大切にすること」など、道徳教育や人権学習の成果が表れていると考える。学びでは、「自分で考え、自分から取り組む」という学習姿勢が一定程度育ってきていることが肯定的回答の多さから示されている。一方で、保護者の回答には「わからない」が比較的多く、授業の様子や学習支援の取組が十分に共有されていないことが課題として浮かび上がる。家庭との共有を一層図る必要がある。
(1) 主体的に考え行動する力を育む教育の推進		
3 社会の形成や持続的発展に主体的に貢献する力を育む教育の推進 学校は、学校生活や地域社会をよりよくするために考えたり、行動したりすることの育成に、取り組んでいると思いますか。(児童会・生徒会活動、学校のきまり見直し、地域のよさを伝えたり課題解決したりする取組、ナイスライ(中学校)など)		アンケート結果から、児童生徒は「地域や学校をよりよくするために考えたり行動したりする活動」に対して、一定の実感をもって取り組んでいる様子がうかがえる。児童会活動や学級・学校行事、地域との交流活動など、これまで継続して取り組んできた経験が、主体的な行動につながっていると考えられる。一方、保護者の回答では「わからない」が比較的多く、学校が行っている自治的活動や地域貢献活動について、家庭側に十分に伝わっていない可能性が示唆される。活動の意義や成果を発信する機会を増やし、児童生徒の成長がより共有されるよう工夫する必要がある。また、地域と連携した探究的な学びにおいては、取り組みの「見える化」や発表の場の設定をさらに充実させることで、子どもたちの社会参画意識を一層高めていくことが期待される。
(2) こども一人一人を尊重した教育の推進		
4 5 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 学校は、子どもが、学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりしながら学ぶ授業づくりを行っていると思いますか。	学校は、子どもが、対話などを通して、他の人の考えや意見を自分の学びに生かすような授業ができていると思いますか。	アンケート結果から、児童生徒は学習の方法やペースを自分で選ぶ活動、友達と対話しながら学ぶ活動を一定程度実感しており、学校の授業改善の取組が定着しつつあることがうかがえる。一方、保護者には「わからない」という回答が比較的多く、学習活動の具体的な様子が十分に伝わっていない可能性が示された。今後は、授業公開や学習日より、ICTを活用した発信などにより、取組の可視化を進める必要がある。また、児童生徒が迷わず学べるよう、学び方の指導や協働スキルの育成を継続し、個別最適と協働を効果的に組み合わせた授業づくりをさらに充実させていくことが求められる。
(2) こども一人一人を尊重した教育の推進		
6 特別支援教育をはじめとする多様な教育的ニーズに対応した支援の充実 学校には、子どもが助けを必要とするときに、先生や友達から支えてもらえる温かな雰囲気があると思いますか。	7 インクルーシブ教育の推進 学校では、子どもがそれぞれの違いを認め、お互いを尊重し合って共に学び合っていると思いますか。	アンケート結果から、児童生徒が「助けを必要とする際に支援が得られる」「互いの違いを認め合い学び合っている」と感じていることがうかがえ、学校の温かな人間関係づくりや日常の支援体制が機能していることが示された。一方、保護者の一部には「わからない」という回答も見られ、校内支援の具体的な内容が家庭に十分伝わっていない可能性がある。今後は、個別の支援計画やユニバーサルデザインの授業、合理的配慮の取組などを分かりやすく発信し、理解を深めてもらうことが重要である。また、支援を必要とする子どもだけでなく、すべての児童生徒が安心して参加できる学級・学校づくりを進め、インクルーシブ教育を一層推進していく必要がある。

(3) 最適な教育環境の整備		
8 安全・安心な園づくりの推進	9 地域や家庭と連携した教育環境の整備	
<p>学校は、こどもの安全を守る環境の整備を進めるとともに、安全教育（生活・交通・防災など）に取り組んでいると思いますか。</p>	<p>学校は、地域や家庭の人と協力して、授業や行事などの教育活動を進めていると思いますか。</p>	<p>アンケート結果では、多くの児童生徒・保護者が「学校は安全面の整備や安全教育に取り組んでいる」「地域や家庭と協力して教育活動を進めている」と肯定的に評価しており、日頃の防災訓練や生活安全指導、地域ボランティアの協力体制などが有効に機能していることがうかがえる。一方で、一部には「どちらともいえない」「わからない」という回答も見られ、学校が実施している安全確保の取組や地域連携の具体的な内容が十分に伝わっていない可能性も示唆された。今後は、家庭への情報共有や取組の可視化を進めるとともに、地域と学校が協働できる場面をさらに広げ、誰もが安心して学べる教育環境づくりを一層推進する必要がある。</p>
(4) こどものいのちと権利の擁護		
10 こどもの最善の利益を守る環境づくり		
<p>学校は、こどもの意見を反映させ、こどもの権利を守るとともに、こどもや保護者が相談しやすい学校づくりに取り組んでいると思いますか。</p>		<p>アンケート結果から、児童生徒・保護者ともに、学校が「こどもの意見を尊重し、相談しやすい環境づくりに取り組んでいる」と一定程度評価していることが分かる。日頃の対話的な学級づくりや相談体制の整備、スクールカウンセラー活用などが、安心感につながっていると考えられる。一方で、保護者の回答には「わからない」が一定数あり、学校の相談窓口や丁寧な支援の実際が十分伝わっていない可能性も示唆される。今後は、こどもの意見がどのように学校運営や学級づくりに生かされているかを分かりやすく発信し、家庭と共有することが重要である。また、誰もが安心して声を上げられる雰囲気づくりをさらに進め、こどもの最善の利益を守る学校体制の一層の強化が求められる。</p>
来年度の具体的な取組について		
<p>来年度は、今年度の学校評価アンケート結果を踏まえ、児童生徒がより安心して学び、主体的に成長できる学校づくりを目指して取組を強化する。まず、豊かな心と健やかな体をはぐくむ分野では、体験的活動や健康教育を継続し、心の教育や体力向上に向けた系統的な計画をさらに充実させる。特に、感動体験や地域文化に触れる学習を増やし、自己肯定感を高める取組を推進する。</p> <p>自ら学びに向かう力を伸ばすため、学習者主体の授業づくりを引き続き重点に据える。個別最適な学びでは、ICTの活用や学習方法の選択肢を拡充し、自分に合った学び方を選べる環境を整える。また、協働的な学びでは、話し合い活動やグループでの課題解決を計画的に位置付け、他者と学び合う力を伸ばす。授業の様子が家庭に十分伝わっていない課題に対しては、公開授業の増加や学習だより、デジタル発信を強化し、家庭との共有を深める。</p> <p>社会参画や持続可能な地域づくりに関する取組では、地域と連携した探究的な活動を発展させる。地域の課題をテーマとした学習や、児童会による自治活動の充実を図り、学校内外で主体的に行動する力を育む。また、活動成果を発表する場を確保し、児童生徒の成長が地域や家庭にも見えるよう工夫する。</p> <p>特別支援教育やインクルーシブ教育の面では、合理的配慮の充実、ユニバーサルデザインの授業改善、個別の支援計画の適切な運用を進めるとともに、家庭への丁寧な説明や連携を強める。すべての児童生徒が安心して過ごせる環境を整えるため、相談体制の充実や、安心して声を上げられる学級づくりをさらに促進する。</p> <p>安全・安心な学校づくりについては、防災・防犯教育や危険箇所点検を継続するとともに、家庭や地域へ取組の内容を積極的に発信し、協働による学校安全体制を強化する。地域人材や保護者の協力を得ながら、学校全体で子どもの健全な成長を支える体制づくりを推進していく。</p>		
小中学校関係者評価		
<p>本年度の学校関係者評価では、多くの領域において児童生徒・保護者・教職員から肯定的な回答が得られ、学校がこれまで取り組んできた教育活動が着実に成果を上げていることが確認された。特に、豊かな心と健やかな体を育む活動、安全・安心な学校づくり、地域や家庭との連携の面では安定した評価が示され、学校の日常的な取組が信頼を形成していることがうかがえる。また、児童生徒においては、自ら考え主体的に取り組む学習態度が育ちつつあり、授業改善の継続的な努力が実を結びはじめていることも評価できる。</p> <p>一方で、社会参画や個別最適な学び、こどもの意見反映の領域では、「どちらともいえない」「わからない」という回答が一定数見られた。これは、学校での取組が必ずしも保護者や地域に十分伝わっていない可能性を示しており、学校の努力を「見える化」し、成果や意義を共有する工夫が求められる。特別支援教育やインクルーシブ教育の面でも、校内での支援体制は評価されているものの、家庭との情報共有が今後の課題として浮かび上がっている。</p> <p>総じて、本校は教育活動に真摯に取り組み、一定の成果を上げている一方、取組の発信や説明責任を強化することで、より一層の信頼醸成と教育力向上が期待される。今後は、学びの充実と安全・安心な環境づくりを両輪として、地域とともに発展する学校づくりを進めていくことが重要である。</p>		